

東南アジア諸国の工業化とFTA : マレーシアの電機産業を中心にして

猿渡, 剛

<https://doi.org/10.15017/1654635>

出版情報 : 九州大学, 2015, 博士 (経済学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : 全文ファイル公表済

氏 名	猿渡 剛 (さるわたり つよし)		
論 文 名	東南アジア諸国の工業化と FTA—マレーシアの電機産業を中心にして—		
論文調査委員	主 査	九州大学	教 授 清水 一史
	副 査	九州大学	教 授 深川 博史
	副 査	九州大学	教 授 岩田 健治

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、2000年代以降のASEANの自由貿易協定（FTA）が、東南アジア諸国の工業化にどのような影響を与えたのかについて、マレーシアの電機産業の事例を中心に考察を行っている。

本論文の意義として、以下の点を挙げるができる。第1に、2000年代以降におけるマレーシアの電機産業の事例を中心に取り上げ、AFTAを中心とするASEANのFTAが工業化に与えた効果について、生産拠点数の変化と生産量の変化並びに貿易の変化を、現地調査をも踏まえて包括的に明らかにした点である。たとえばマレーシアのテレビやエアコンの事例が示すように、FTAの効果によって、特定の国への生産拠点の集約と当該国における集中生産と輸出が増加した。第2に、最終製品への効果だけでなく、部品や部材への影響も明らかにした点である。部材に関しては、カラーフィルターやガラス基板の事例が示すように、新規の生産拠点が各国で設立され、当該国で集中生産と輸出が増加した。第3に、以上からFTAが与える効果として、最終製品の生産拠点の集約と部材の生産拠点の新設というパターンが存在すること、そして特定の国だけでなく多くの国において工業化が進展したことを明らかにした点である。

全体として本論文は、2000年代以降のAFTAを中心としたASEANのFTAが、マレーシアと東南アジア諸国における最終製品と部材の集中生産・域内流通をもたらし、マレーシアと東南アジア諸国の工業化を促したことを明らかにしている。こうして本論文は、東南アジア経済とFTAの研究に新しい知見をもたらしているものと評価できる。

本論文で考察した家電製品以外の事例や、2015年にほぼ確立したAFTAとASEAN経済統合の深化が東南アジア諸国に与える影響等の一層の解明が望まれるが、これらの点は本論文の価値を損なうものではなく、今後鋭意追求すべき課題に属する。

以上の理由により、本論文調査会は、猿渡剛氏より提出された論文「東南アジア諸国の工業化とFTA—マレーシアの電機産業を中心にして—」を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。